

# 森林 レンジャー がゆく

(12)

## 夏鳥の訪れ

サクラの花が散り、スギ花粉もようやく落ち着いたころ、南の国から日本へやってくる渡り鳥たちがいます。家の軒先などにお椀型の泥の巣を作る「ツバメ」や托卵たくらんといって他の種類の鳥の巣に卵を産みつけ、子育てを一切しない習性のある「カッコウ」の仲間などがそうです。このように春に南の国から渡ってきて日本で子育てし、秋には南の国へ渡って越冬する鳥を一般的に「夏鳥」と呼んでいます。

昨年しねんの5月ごろ、市内のあちこちの山に分け入り調査を行っていた時に、多くの夏鳥に出会いました。溪流沿いの林の梢すゝみで青色の羽毛が映える「オオルリ」、

木々が茂る広葉樹林では黄色と黒のコントラストが美しい「キビタキ」に出会いました。これらの鳥に出会うと美しい姿に目を奪われ、つい足を止めて長時間観察したくなってしまうます。また、夏鳥たちのさえざりは耳も楽しませてくれます。尾根沿いを歩いていると「ポポ、ポポ…」とリズムカルにつつまをたたくような音が聞こえてきたり、林の茂みの中からは「焼酎一杯ぐい」と言っているような鳴き声が聞こえてきたりします。前者はカッコウの仲間ツツドリツツドリのさ

えずりで、後者はセンダイムシクイというウグイスの仲間のさえざりです。ツツドリはカッコウの仲間なので、センダイムシクイの巣に托卵をします。

このように、あきる野市内にも毎年たくさん夏鳥が訪れます。若葉が青々と成長し森全体が緑色に感じることこの時期、身近にある森へ出かけ夏鳥の観察を試みてはいかがでしょうか。

佐々木優也

